

第5回企画・運営委員会議事概要

日 時	平成 25 年 1 月 24 日(木) 19 時 00 分～21 時 00 分
場 所	保健センター 2 階 研修室
出席者	委 員 徳永幸夫、井上仁、坂上京子、鈴木太、土谷浩也、星川将一、 三谷一恵、一色隆輔、篠原繁雄、山本淑子、矢野正樹 事務局 河村市民文化ホール等整備課長、田辺課長補佐、今村課長補佐、 中山係長、加地係長、福田係長、佐藤、 宝利文化図書課課長 空間創造研究所 米森
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	

(協議概要)

項 目	協議概要
■会議の成立について	○委員長:企画・運営委員 12 名中 11 名出席過半数の出席を確認したので委員会は成立。
■会議の公開、非公開について採決	○委員長:本日の議題が「今後の予定」「企画運営基本計画(案)について」等であり、非公開とする議題ではないので公開。
■第 21 回建設委員会、第 4 回企画・運営委員会合同会議事概要について	○事務局:第 21 回建設委員会議事概要及び第 4 回企画・運営委員会合同会議議事概要について説明。
■今後の予定について	○事務局:企画運営基本計画(案)を当初の予定どおり3月中にまとめたいが、協議状況によっては4月にずれ込む可能性もある。3月中にまとめるためには月2回の開催もありえる。基本計画(案)策定後も何らかの形で委員より意見を伺いたいと考えている。詳細はあらためて連絡する。
■企画・運営基本計画(案)について	<協議方法について説明> ○事務局:協議方法について、今回は以前示した協議項目(案)のうち事業計画について協議レジュメの順に協議したい。事務局より素案の該当箇所を説明し、検討項目について考え方等を空間創造研究所より説明。その後委員より意見を伺いたい。多くの意見をいただきたいため、レジュメに記入し、会議後提出いただくことも考えている。

	<p><自主事業の方向性について></p> <p>○事務局:素案内該当箇所について説明</p> <p>○空間創造研究所:素案の内容のみを議論するだけでは当委員会の独自性が無い。また自主事業を行うかどうか企画・運営委員会として決まっていない。委員の意見を幅広く聞くためにレジユメを作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホール施設を取り巻く環境について説明。 ・平成13年、文化芸術基本法が制定し、文化芸術の振興の理念、重点政策を掲げる。 ・平成24年、文化芸術振興法の基本理念を発展し、劇場音楽堂の活性化を図る劇場音楽堂の活性化を図る法律が施行された。この法律では、国内の文化施設の分析をすると、多くが文化ホールなどの文化施設であり、多目的利用が多く、これら施設での文化芸術活動は貸館事業が中心である。 <p>課題として、文化芸術劇場としての機能を十分に発揮できていない。実演芸能団体の活動拠点が大都市に集中し、地方で多彩な芸術に触れる機会が少ない等の指摘がある。これらから、文化芸術振興法の理念を進めるためには貸館事業だけではなく、地域の特色のある事業や自主事業を進めないと文化振興は難しいことが示されている。</p> <p>将来的には活発な活動を行っている施設には重点的な補助金の割り当てなどの施策につながっていくのではないかと。</p> <p>このようなホールを取り巻く環境の中、今後四国中央市のホールでどう活動するのか議論を。</p> <p><自主事業を行わず、貸館事業を進める？></p> <p>○委員長:基本構想策定時から自主事業は実施するものと先入観を持って協議してきた。あらためて、自主事業を行うかどうか意見を聞きたい。</p> <p>○委員:自主事業を行うのは収益を伴うものなのか。予算はどうするのか。</p> <p>○事務局:他の施設の例から地方で収支をプラスにすることは期待できない。経費は公費で一部負担していくことになる。規模は実施計画の中で話し合っ て決めていくことになる。</p> <p>○委員長:自主事業の収入だけで運営費用をまかなうのは難しい。行政からの支援に自主事業等でどう補填できる力を得るのかポイントでは。</p> <p>○委員:自主事業を行わないと市民文化ホールの意味が無い。自分たちのホールは自分たち(市民)で育てていく姿勢を持つべき。</p> <p>○委員:自主事業と貸館事業をバランスよく取り入れてはどうか。市の予算を考慮しながら、せっかくのホールが利用されないということがないように取り組む必要がある。</p> <p>○委員長:自主事業を行うべきという意見があったが、貸館事業のみでよいという意見はないか。</p>
--	--

	<p>○委員長：貸館事業のみという意見が無いため、自主事業を行う方針としたい。</p> <p><自主事業の対象者は文化芸術に関心のあるひとだけ？></p> <p>○空間創造研究所：現在、音楽、舞台などの活動している人や積極的に鑑賞に来る人を対象にさらに進めていくことも考えられるが、自主事業を考えていく中で、音楽、舞台芸術に関心の無い人に対し何らかのアプローチを考えるかどうか。</p> <p>○委員：自分は地域で演劇活動しているが、これ以上観客が増えないと感じることがある。関心のある人はホールに来て当たり前。関心の無い人に関心を持ってもらうために何かを行う姿勢は必要。広い視野を持って行う必要があるのではないか。</p> <p>○委員長：可児市文化創造センターでは新しいものを取り入れ、良かったものは繰り返し上演している。また文化芸術に興味を持ってもらうため、交響楽団が長期滞在の間に小中学校などを回るなどホール外での活動で市民と交流している。</p> <p>○委員：市民文化ホールはオープンな公共施設である。できるだけ多くの人に何度も来館してもらうことが必要。興味が無い人も利用してもらわないといけない。カルチャースクールでもよいが参加型の継続事業として、いろいろな仕掛けが必要。</p> <p>○委員長：せつかく建設するホールが市民の芸術文化の機運を盛り上げるものでないといけない。多くの方に利用してもらうためにも自主事業を文化芸術に関心が薄い人も対象に行う。自主事業の対象は関心のある人だけではなく、幅広い人たちも対象とし、関心のある人を増やし育てることが必要であるという方針としたい。</p> <p><自主事業の対象者は施設に来た人のみを対象にするか？></p> <p>○空間創造研究所：自主事業として、芝生広場などにふらっと立ち寄った人がホール内で無料コンサートなどしていると聴いてみようかと思うようなことをするのか、幼稚園、小中学校、老人介護施設などホールの外へ飛び出し活動する(アウトリーチ)のか意見を聞きたい。</p> <p>○委員：例えば京都フィルを呼んだとして、ホールのイベントと併せて小学校などに出かけて何かをするということか。</p> <p>○空間創造研究所：自主事業の中で小学校等へ出向くプログラムも考えられる。また地元の文化団体とアウトリーチのプログラムを作り行うことも考えられる。病院へ出向く例として、音楽団体が音楽療法を学び実践したり、舞台芸術の団体とリハビリプログラムを組むことも考えられる。それぞれ最初はプロについて学び最終的に地元の団体で行うなどの方法が考えられる。</p> <p>○委員：アウトリーチは地域への貢献、広がりをつくることができ、ホールにと</p>
--	--

って有意義ではないか。運営として難しい面もあるが、試みとしてはいいのでは。

○委員長：基本構想ではにコミュニティー FM について記述しているが、ケーブルテレビの活用についても議論した。市民、外部に向けて積極的な役割を果たしていく等の意味を持ったホールにしたい。

自主事業の対象はホールに来た人だけでなく、ホールから外に積極的に働きかけるホールにするため、来館者以外も対象とする方針としたい。

○委員：このような協議項目は当たり前のことと思う。基本構想の策定段階でも協議し、基本構想に記しているのでも協議しなくてもよいのではないかと。

○空間創造研究所：現在の企画・運営委員の中にはこれまでの議論に参加していない人もいるため、このような設問での議論をすべきと考えた。内容を十分に理解している委員にはこの設問にとらわれず自主事業に対する基本的な考え方などの意見をいただきたい。

<ターゲットとする年齢層は？>

○空間創造研究所：年間の事業全体を計画する上で一定の年齢層に絞っていくのがいいのか、幅広い年齢層とするのか意見を聞きたい。

○事務局：都会で様々なホールがあればターゲットとなる年齢層を絞り込むこともできるが、当市は市民文化ホールとユースホールとなるが、おのずから全ての年齢層をターゲットとすることになるのでは。

○委員長：市民文化ホールがシンボリックな公共施設であり、特定の年齢層ではなく全ての年齢層が対象となることが求められる。

<どのような事業を行っていけば良いか？鑑賞事業・普及型事業・参加型事業>

○空間創造研究所：これまでの協議を踏まえ、素案には 3 つの型に分けて示しているが、型にとらわれず、どのような事業をしていくのか意見を伺いたい。

○委員：ふるさとアドバイザーである NHK 交響楽団の井川さんのブラスクリニックをこれまで 4 回開催している。中高生への指導の後、鑑賞会を開くなどワークショップと鑑賞をリンクさせている。音楽に限らずこのような子どもの育成の取り組みが続くことを望んでいる。

○委員長：基本構想でも人材育成の場としたい考えもある。

国際交流、市民交流の場としたいと基本構想に記したが、どの分類になるのか。交流事業の分類が必要では。

○空間創造研究所：国際交流となると交流事業の位置付けが必要となる。海外の芸術団体を自主事業として招聘する、一定期間市内に滞在してもらっている間に事業とあわせ普及事業もしてもらおうとも考えられる。コンベンションを強く押していく考え方もある。鑑賞事業と普及型事業の連携もある。また

	<p>収益を上げられるものだけを行っていくのか。他施設の例として収益が出れば、その収益で鑑賞事業として新しい芸術を市民に紹介することもでき、何年か後には四国中央市に新しい価値観が生まれることもある。</p> <p>○委員：どのような組織体制になるのか見えないので意見が言えない。</p> <p>○委員：観光協会との連携も必要になるのでは。他分野、観光協会の記述が必要。営業が大切なので、観光協会もいっしょに頑張ってもらいたい</p> <p>○委員：対象とするのは四国内か全国なのか。自主事業を考えるのは市役所内部だけでは難しいのではないか。</p> <p>○委員長：交流型事業の項目を作れないか。四国の知事会や企業の支店長会議などの利用も考えられる。</p> <p>○委員長：「市民交流」といっても当市の市民だけの交流ではなく、当市の市民と他のまちの人との交流事業ができれば。</p> <p>○委員長：以前、市民で事業を行う団体に参加していた。その当時から普段鑑賞できないものをという意見が多かった。</p> <p>○委員：プロの人気のある劇団は近くでも広島までしか来ない。なかなか四国には来てくれない。また水曜日の上演が多く、出向いての鑑賞が困難である。逆に当市に呼ぶことができれば四国内からお客は呼べるのではないか。</p> <p>○委員：小学校保護者で話をすると鑑賞型を望んでいた。</p> <p>○委員：ホールの何を「売り」にするのか。それを売れば上手くいくのではないか。</p> <p>○委員長：当市にはジャンクションがあり、四国で一番交通条件が良いことを生かさなければ。</p> <p> 近隣の自治体でも同様のホールを計画しており、何を目玉にするかはっきりしないと埋没してしまう。</p> <p>○委員：目玉事業を鑑賞型、普及型、参加型に分類して表現するのは難しい。鑑賞事業は行えると思うが、人気のあるアーティストを呼んできても一過性で終わってしまう。このまちは高校生が元気。交流事業も含め、鑑賞型、参加型を良いものにしてアピールしていく。参加、普及を分類してるのはやりにくいのでは。</p> <p>○委員長：どの分野に力を注ぐか。どれにも力を注ぐか。</p> <p>○空間創造研究所：事業分類にとらわれず意見を。また追加項目があれば意見を。</p> <p>○委員：大会がない時期に自主事業をするなど、年間スケジュールは貸館事業を考慮を。学校などへスケジュールの要望の聞き取りを。</p> <p>○委員：素案内「重点的に展開する」の表現を変えた方が良いのでは。</p> <p>○委員：理想は貸館事業だけでスケジュールが埋まることが文化地域となる。貸館だけでは来てもらえない人に来てもらうことも必要では。より多く人に来てもらえるよう参加型の継続性のある事業が大切。</p>
--	--

■その他	<p><今後の予定> 事務局:協議の状況によっては月2回の開催もありうるのでご協力を。</p> <p>(閉会)</p>
------	---